

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 4 週(1 月 20 日～ 1 月 26 日)

奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)

<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

!! インフルエンザ注意報発令中 !!

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題～今シーズンのインフルエンザ流行と薬剤耐性ウイルス～

❖ 定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患) ❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	インフルエンザ	21.24	(11.00)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
2	感染性胃腸炎	8.85	(7.18)	↗	↑	↗	↗
3	A群溶連菌咽頭炎	1.21	(0.68)	↑	↑	↑↑	↑
4	水痘	1.00	(0.79)	→	↗	→	↓
5	RSウイルス感染症	0.56	(0.59)	↓	↓	↘	→

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)

増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

❖ 県内概況 ❖

◆インフルエンザ注意報が発令中です。

県内全域で注意報基準値(定点当たり10)を超えています。

葛城保健所管内では警報基準値(定点当たり30)を超えています。

- 第4週におけるインフルエンザの定点当たり報告数は県全体で21.24と、前週(11.00)前々週(4.70)から倍々で急増しています。今後は、さらに流行が広がる可能性がありますので、咳エチケットや外出後の手洗い・うがいの徹底など感染予防に努めるとともに、体調管理には十分注意しましょう。

《参考》

インフルエンザ Q&A (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

啓発ツール(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/keihatu.html>

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

インフルエンザが流行しています。今年になってからは全てA型の検出で、精密検査ではAH3(A香港型)が大半ですが、AH1pdm(A新型)も検出されています。溶連菌咽頭炎も保育園で流行しています。

感染性胃腸炎はマスコミが大騒ぎしていますが、実際には減少しています。症状も軽症が大部分です。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はインフルエンザの増加に伴い増加。インフルエンザは殆どA型。ごく僅かにB型がある。幼児から学童に多く、若い母親にも見られる。初期に嘔吐を伴う例がありノロウイルスと紛らわしい症状を呈する例もある。高熱が遷延しタミフル耐性が疑われる例もある。感染性胃腸炎は嘔吐が主のノロウイルス様の例が多く、ロタはない。他に水痘が流行中。

南部地区(県立五條病院小児科)

インフルエンザは増加している。大部分がA型だが、一部B型も見られる。市内保育所や小学校で学級閉鎖しているところもある。幼児のA型インフルエンザでタミフル不応症例が低酸素血症となった。タミフル耐性にも注意が必要である。

今シーズンのインフルエンザ流行と薬剤耐性ウイルス



全国のインフルエンザ流行状況

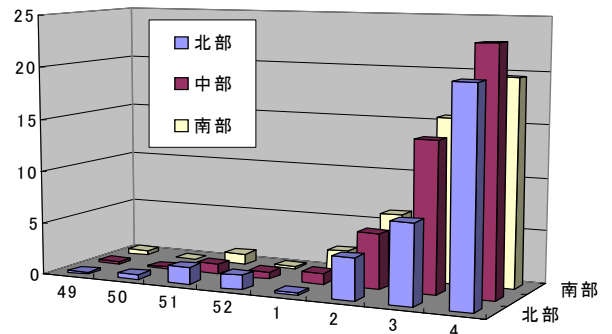
厚生労働省は、第3週(1/13-19)のインフルエンザ発生状況を発表しました。

- ・ 定点当たりの報告数は2013年43週以降増加が続き、2014年2週(1/6-12)と比較し2.13倍と大きく増加しています。都道府県別では沖縄県、宮崎県、岐阜県、大分県、福岡県、熊本県の順に患者が多くなっています。
- ・ ウイルス検出状況を見ますと、AH3型(香港型)の割合が最も多く、次いでAH1pdm09型(2009年発生したものと類似)、B型の順で検出されていますが、**直近(5週間)ではAH1pdm09型の検出割合が最も多くなっています。**

(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/houdou.html>)

奈良県の流行状況

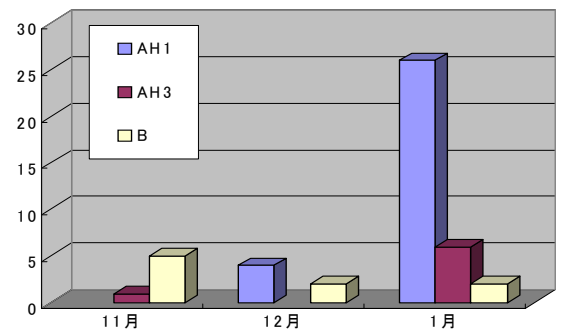
35 定点医療機関からの患者報告数から、インフルエンザの流行開始(定点あたり報告数1<)が北部、南部で2013年51週以降、中部で2014年1週以降に見られました。その後、急激な増加が見られ注意報(10<)が中部、南部で3週(1/13-19)、北部では4週(1/20-26)、で達しました。特に北部では第3週と4週の間で2.65倍の増加が見られました。



例年の流行パターンから**ピークは5週から7週**であることから、**今後も流行が拡大する可能性があります。**予防対策を徹底するとともに、38℃以上の発熱、咳、咽頭痛、関節痛などの症状が見られたら、早期に医療機関に受診してください。

ウイルス検出状況

2014年1月に入り、AH1pdm09型(2009年の新型インフルエンザ類似ウイルス)インフルエンザの急増が目立ちますが、他にAH3型(香港型)、B型の流行も見られません。



AH1pdm09型における耐性マーカー(H275Y)遺伝子検出状況

国立感染症研究所のまとめによりますと、抗インフルエンザ薬(タミフル)が効きにくいAH1pdm09型インフルエンザが5道府県:北海道15例、山形県2例、大阪府1例、神奈川県1例、三重県1例から計20例見つかりました(1月27日)。一方、AH3型(香港型)、B型からは耐性を示す遺伝子変化は見つかっておりません。

(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/flu-m/flutoppage/2068-flu/flu-dr/4322-flu-dr20140127.html>)

県内で検出した19例のAH1pdm09型インフルエンザについても耐性遺伝子解析を実施していますが、**耐性を示すH275Y変異をもつウイルスは見つかっておりません。**

(感染症情報センター、保健研究センター)

❖ 定点把握感染症報告状況 ❖

平成 26 年 第 4 週 1 月 20 日 ~ 26 日

保健所別報告数	奈良県		北部		中部		南部	
	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野		
インフルエンザ定点数	55	11	16	11	11	3	3	
インフルエンザ	1147 (21.24)	251 (22.82)	291 (18.19)	174 (15.82)	333 (30.27)	25 (12.50)	73 (24.33)	
小児科定点数	35	7	10	7	7	2	2	
RSウイルス感染症	19 (0.56)	1 (0.14)	1 (0.10)	6 (0.86)	5 (0.71)	1 (1.00)	5 (2.50)	
咽頭結膜熱	11 (0.32)	2 (0.29)	1 (0.10)		8 (1.14)			
A群溶連菌咽頭炎	41 (1.21)	14 (2.00)	6 (0.60)	4 (0.57)	15 (2.14)	1 (1.00)	1 (0.50)	
感染性胃腸炎	301 (8.85)	65 (9.29)	89 (8.90)	72 (10.29)	56 (8.00)	5 (5.00)	14 (7.00)	
水痘	34 (1.00)	7 (1.00)	10 (1.00)	8 (1.14)	8 (1.14)		1 (0.50)	
手足口病	1 (0.03)		1 (0.10)					
伝染性紅斑	1 (0.03)		1 (0.10)					
突発性発しん	2 (0.06)			2 (0.29)				
百日咳								
ヘルパンギーナ	1 (0.03)			1 (0.14)				
流行性耳下腺炎	3 (0.09)	1 (0.14)		1 (0.14)		1 (1.00)		
眼科定点数	9	1	3	2	2	0	1	
急性出血性結膜炎							-	
流行性角結膜炎	1 (0.11)		1 (0.33)				-	
基幹定点数	6	1	2	1	1	1	0	
細菌性髄膜炎							-	
無菌性髄膜炎	1 (0.17)		1 (0.50)				-	
マイコプラズマ肺炎							-	
クラミジア肺炎							-	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	2 (0.33)		2 (1.00)				-	

上段 : 報告数
(下段) : 定点当たり報告数 報告数 ÷ 定点数

❖ 全数把握感染症報告状況 ❖ ()は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核 5件(奈良市 1件、郡山 2件、葛城 1件、吉野 1件)
3類感染症	
4類感染症	レジオネラ症 1件(葛城 1件)
5類感染症	後天性免疫不全症候群 1件(奈良市 1件)

❖ 第 4 週のトピックス ❖

◆ 新型インフルエンザ等に関する訓練が行われました(内閣官房)

< 新型インフルエンザ等対策訓練内閣官房、政府インターネットテレビ >
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ful/kunren.html>
<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg9189.html?t=58>

年齢別報告数

年齢区分	年齢	0-5M	6-11M	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	累計
インフルエンザ	男	1	8	22	22	36	27	44	39	30	23	29	92	22	30	41	48	29	18	4	3	568	1013
	女	2	9	24	29	25	30	41	29	36	36	28	63	24	43	59	50	24	17	5	5	579	1023
RSウイルス感染症	男	4	3	2	1		1															11	41
	女	3		1	2	1			1													8	48
咽頭結膜熱	男		1		1			1														3	15
	女			4	2	1	1															8	18
A群溶連菌咽頭炎	男			1	2		4	4	2	1	1	1	2									17	43
	女			1	1	1	4	3	1	3	1	3	4		2							24	45
感染性胃腸炎	男	4	9	18	13	6	8	11	3	10	5	7	10	6	33							143	427
	女	2	8	18	11	9	13	8	5	1	8	4	15	10	46							158	391
水痘	男		1	6	4		1	2	3	1		1	1									20	61
	女	2		3	2		2	2	2			1										14	58
手足口病	男							1														1	2
	女																						
伝染性紅斑	男																					1	3
	女						1															1	8
突発性発しん	男	1																				1	10
	女			1																		1	
百日咳	男																						
	女																						
ヘルパンギーナ	男																					1	1
	女												1									1	3
流行性耳下腺炎	男						1															2	5
	女								1													1	
急性出血性結膜炎	男																						
	女															1						1	9
流行性角結膜炎	男																						
	女																						5
細菌性髄膜炎	男																						1
	女																						
無菌性髄膜炎	男																						1
	女			1																		1	1
マイコプラズマ肺炎	男																						
	女																						
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	男	1																				1	1
	女			1																		1	1

❖注目疾患の動向❖ 全て定点当たり報告数

— H26 ▲ H25 □ H24 — 過去10年平均

